ISSN 2436-5440

亜細亜大学課程教育研究紀要

第 10 号 2022

【書評】

五百旗頭真監修『評伝福田赳夫―戦後日本の繁栄と安定を求めて―』・・・ 菅谷幸浩 ……1

【履修生体験記録】

図書館総合演習(1)・・・・・・・・・・・・・ 伊津野　智哉（経済学部）……7
図書館総合演習(2)・・・・・・・・・・・・・ 菊政　彩音（国際関係学部）……8
教育実習(1)中学社会・・・・・・・・・・・・ 佐伯　楓（法学部）……9
教育実習(2)高校社会・・・・・・・・・・・・ 新海　僚久（法学部）……11
教育実習(3)高校英語・・・・・・・・・・・・ 吉成　伊織（国際関係学部）……13
教育実習(4)中学英語・・・・・・・・・・・・ 渡邊　武蔵（国際関係学部）……17

【課程基礎データ及び資料】

2021 年度 課程履修者数 ……20
2021 年度 資格取得者数（教員免許、司書、社会教育主事）……21
2021 年度 介護等体験活動実施状況 ……21
2021 年度 教育実習先・実習科目一覧 ……22
2021 年度及び過年度　卒業生進路一覧……24
2021 年度 課程科目担当者一覧 ……25
課程運営協議会記録……26

【規程類】

亜細亜大学課程教育研究紀要刊行規程及び投稿規程 ……28

書評：五百旗頭真監修『評伝福田赳夫―戦後日本の繁栄と安定を求めて―』

菅谷幸浩

Review of 〝Critical biography of TAKEO FUKUDA〟 supervised by Makoto Iokibe

Yukihiro SUGAYA

福田赳夫は 1970 年代、第 67 代内閣総理大臣ならびに第 8 代自由民主党総裁を務めた官僚出身政治家である。首相在職期間は 2 年に満たなかったが、1978（昭和 53）年締結の日中平和友好条約は戦後史の年表に必ず登場する。また、田中角榮や中曽根康弘との間に繰り広げた党内対立は、しばしば中選挙区制の副産物として言及される。福田の創設した清和政策研究会は現在の自民党では最大派閥であり、その動向は常に永田町で注目されている。それだけに、戦後日本の政治外交史や自民党の在り方を捉える際、福田は欠くことのできない存在である。

福田は逝去直前、自叙伝『回顧九十年』（岩波書店、1995 年）を残したが、評伝的研究の面では立ち遅れていた。本書は日本政治外交史研究者の五百旗頭真氏と井上正也氏に加え、毎日新聞社政治部記者として福田に接した上西朗夫氏、三木内閣経済企画庁長官時代の福田に秘書官として仕えた長瀬要石氏による共同研究の成果である。序文にあるように、「政治家福田赳夫に関する初めての本格的な評伝として、実証的根拠に基づいて、彼の歴史的実像を明らかにしようとするもの」（x 頁）であり、福田が残した膨大な一次史料（「福田メモ」）に加え、関係者へのインタビューを盛り込んでいる点に特色がある。

従来、福田は戦後日本政治史の上で岸信介に連なる保守傍流と位置付けられていたが、本書では「日米基軸を前提として丁寧に協議しつつ日中平和友好条約を結び、日本外交を平和的に全方位化しようとした」福田こそ、「『軽軍備、経済優先』を重視する戦後日本の平和的発展路線」、すなわち、「保守本流」と呼ぶにふさわしい存在であった（vii 頁）、という評価を導き出そうとしている。

目次（節は省略）と分担執筆者は以下のとおりである。

序（井上）
第 1 部
　第 1 章　上州の神童（上西）
　第 2 章　軍部と大蔵省（上西）
　第 3 章　敗戦から戦後へ（上西）

第 2 部
　第 4 章　安定と発展の基盤づくり（井上・長瀬）
　第 5 章　福田農政と安保闘争（井上・長瀬）
　第 6 章　所得倍増（長瀬）
　第 7 章　党風刷新（井上）
　第 8 章　６５年不況の克服（長瀬）
　第 9 章　いざなき景気と昭和元禄（井上・長瀬）
第 3 部
　第 10 章　世界の中の日本（井上・長瀬）
　第 11 章　列島改造に抗して（井上・長瀬）
　第 12 章　三木政権の経済総理として（長瀬）
　第 13 章　三木おろし（井上）
第 4 部
　第 14 章　福田政権の内政展開（長瀬）
　第 15 章　マクロ経済政策協調と日米関係（井上）
　第 16 章　全方位平和外交（井上）
　第 17 章　大福対決（井上）
　第 18 章　世界の福田（井上）
結（井上）
あとがき（五百旗頭）
福田赳夫年譜

第 1 部では 1905（明治 38）年、群馬県金古町の豪農の家に生まれた福田が 1929（昭和 4）年に東京帝国大学法学部卒業後、大蔵省勤務を経て、1952（昭和 27）年に無所属で初当選するまでの期間を扱っている。世界恐慌期、ロンドン勤務（英仏駐在財務官事務所財務書記）を経験したことは国際協調への認識を深める契機になる。また、1940 年代の南京国民政府（汪兆銘政権）財政顧問時代に福田が通貨統一事業や徴税予算編成に積極的な役割を果たしたことを重視し、この経験がのちに財政家として活躍する素地になったという。福田は主計局長在任中の 1948（昭和 23）年、昭和電工事件に巻き込まれて逮捕され（1958 年、無罪確定）、1950（昭和 25）年に大蔵省を依願退官したことで、政治家への道を志すことになる。

第 2 部では日本民主党政調会副会長として、経済・財政政策の面で党の方針決定に関与し、のちに自民党で「党内きっての財政通の名声を確立し」（140 頁）た福田が岸内閣期から佐藤内閣期にかけてどのような政策を抱いていたか、党内での動向も含めて検討している。1959（昭和 34）年、岸内閣農林大臣として

初入閣した福田は農村・中小企業こそ、都市部の大企業を発展させるための基盤と考えていたことや、同じく大蔵官僚出身であった池田勇人とは異なる経済思想を持っていたことを明らかにしている。福田が経済計画に肯定的な健全財政主義に立ち、経済の均衡を意識する安定成長論者であったのに対し、池田は経済計画に消極的であり、成長一辺倒の高度成長論者であった。佐藤内閣蔵相となった福田は「65 年不況」に対処するため、昭和 41 年度予算編成で 7,300 億円の公債発行を決断したことで、「日本経済は昭和最長となった『いざなぎ景気』への移行に道をつけた」（239 頁）と評価している。

第 3 部では佐藤内閣外相時代から 1976（昭和 51）年の三木内閣退陣までの期間を扱っている。外相就任前の 1971（昭和 46）年に残したメモに「軍事大国を排す」、「国際的に平和大国」とあることから、「後に福田が自民党総裁選に出馬する際に示した『平和大国』論のエッセンスが集約されている」（322 頁）と評している。続く田中内閣期と三木内閣期については、田中角榮との競合や、経済政策を中心に福田の動向を検討している。また、三木内閣末期、福田は大平正芳から総裁就任の支持を取り付けるため、2 年後の政権授受を約束したとされる「大福密約」が実在しなかったことを史料状況などから論証している。

第 4 部では 1976（昭和 51）年の福田内閣成立から 1995（平成 7）年の逝去までの期間を扱っている。第一次石油危機の影響から日本経済を立て直すことを使命とした福田の下、「輸出に支えられた外需依存の経済が公共投資の大幅増加と民需回復によって念願の内需型に移行した」（488 頁）点を高く評価している。福田財政の特徴は内需拡大と国際協調を組み合わせた点にあり、そのことは米主導の国際経済秩序が動揺する 1970 年代にあって、日本・欧州・米国が世界経済を牽引する「三極主義」の姿勢につながる。それまで持論であった健全財政主義に代わり、この時期の福田が財政拡大路線に転換したのは、マクロ経済協調を支えるための暫定的措置であったとする。

また、福田内閣期の対東南アジア外交と対共産圏外交は国際政治学者・若泉敬の発案した「全方位平和外交」という理念に基づくものであり、東西問題と南北問題に同時に対処しようとする性格のものであった。福田を支えたのは大平との提携関係であったが、福田内閣の長期化を望まなかった田中の思惑によって「大福提携」は破綻し、1978（昭和 53）年の自民党総裁予備選敗北後に退陣する。しかし、首相退任後も福田の世界への関心は衰えず、世界各国の大統領・首相経験者を集めたＯＢサミット（インターアクション・カウンシル）の開催や、逝去直前の国連大学における演説では、食料・資源・エネルギー・環境などの面にも配慮した安全保障概念の必要性を訴えていたことを紹介している。

以上、700 頁近い分量である本書の内容を要約したが、全体として経済史と外

交史の叙述が多く、重厚な出来映えとなっている。監修者である五百旗頭氏のあとがきによれば、執筆者同士で草稿の交換・修正を重ねることで「共同執筆」の体裁をとったという。そのことで全 18 章は見事な一貫性が保たれている。

本書の画期性として挙げられるのは、大きく分けて次の三点である。

第一は「福田メモ」に基づく実証性であり、福田が内外の情勢にどう向き合ったか、その時々の政局観や政治理念を分析した点にあるだろう。評者個人としては、岸内閣末期に福田が英のマクドナルド挙国一致内閣をモデルにして、民社党委員長・西尾末広を首班とする連立政権を構想していたことや、佐藤内閣期の沖縄返還交渉への関与、田中内閣後半期から三木内閣成立過程における動向などは新鮮味を感じさせた。また、これまで伝えられてきた「大福密約」が虚構であることを論証した点は今後の戦後日本政治史の叙述に大きな影響を与えるだろう。

第二は経済史の面に多くの紙幅を割き、長い歴史的スパンから福田の経済・財政政策の特徴を解明した点である。経済政策に見る緻密さや、ブレーンに頼らない主体的な意思決定など、福田の政治手腕がどのように確立されたのかを遺憾なく表している。もともと昭和戦前期研究から出発した評者にとって、福田が在外勤務中に経験した世界恐慌を通じて、保護主義の誤りと国際協調の重要性を認識させるきっかけになったことや、高橋財政やケインズ理論の影響を受け、「金融・財政を両翼とする総需要管理政策を実務として定着させた」（261 頁）点は興味深く読んだ。資源の乏しい日本にとって、通商国家としての発展を正しい道と捉える点で、福田はまぎれもなく吉田茂と同じスタンスであった。その点では福田を「保守本流」として捉えようとする本書の意図は成功していると言える。第 8 章には「昭和の財政家・福田」と冠された小見出しがあり、福田の歩みがそのまま昭和経済史に重なることを示している。本書は政治外交史のみならず、経済史を学ぶ上で実に魅力的なテキストと言えよう。

第三は比較の視座である。経済思想における池田勇人との相違を整理した第 6 章のほか、第 11 章では福田が田中角榮のように一挙に日中国交回復を図るのではなく、首脳会談後の国交正常化協議を進める「二段階復交論」を考えていたことを紹介しており、評者としても新たに学ぶところが多かった。特に福田が社会政策の一環として住宅政策を重視していたことは卓見と言えよう。

ただし、評者として気付いた点も付け加えておきたい。

第 1 は保守政治家の側面へのアプローチが弱いのではないか、ということである。第 4 章では福田が「伝統的な価値観を守ろうとする点でまぎれもなく保守主義者」（137 頁）であったと評しているが、本書全体を通読した印象として、そうした面が十分に分析さていないように感じた。勿論、政治における保守の

概念は多義的であるが、「平和大国」論や「全方位平和外交」に主たる関心を置いた結果、焦点から外された内容がいくつかある。

第 9 章では佐藤内閣期、自民党幹事長である福田が「自主憲法の必要性を主張しながらも、日本国憲法にある平和主義・国際協調主義・基本的人権の尊重といった条文を高く評価し」、改憲の政治日程化を考えていなかった点を踏まえ、「こうした福田の憲法観は、やがて彼の政権構想である『平和大国』論へと結びついていく」（273 頁）と解釈している。であれば、のちの青嵐会と福田の関係はどう捉えればいいのか。青嵐会は 1973（昭和 48）年、田中金権政治打破を動機として誕生した保守政策集団であり、自主憲法制定、反共などの主張を掲げた。当時、福田派別動隊と称されたように、福田派やそれに近い立場の議員が多く参加していた[1]。本書で青嵐会への言及が少なかったことはやや寂しく感じた。

第 5 章では福田が農業経営の共同化を目指す社会党案に批判的であり、家族形態の農業を重視していたことを紹介している。その背景には農村出身も生い立ちも作用しているだろうが、ソ連に見られる農業集団化への拒否感など、イデオロギー的理由はなかったのだろうか。評者の穿った見方と言われるかもしれないが、教えを乞いたい。また、福田は田中内閣蔵相在任中の 1974（昭和 49）年に国際勝共連合の指導者・文鮮明を囲む晩餐会で、「アジアに偉大な指導者現る」と発言している[2]。これは福田の反共主義を示す逸話であるだけに、何らかの説明が欲しかった。

第 14 章では福田内閣の内政面での取り組みを検討し、その中で福田が元号法制化への意識を有していたことを指摘している。しかし、教育勅語が示す「人の道」を高く評価した国会答弁（1972 年 2 月 5 日、第 80 回参議院本会議）や[3]、靖国神社参拝（1978 年 8 月 15 日）には触れていない。また、1980 年代の福田が新冷戦に伴うソ連の脅威を受け、日本の防衛力強化に関心を寄せ、自民党の国防族議員に影響力を持っていたことも取り上げる必要性があったのではないか。

ちなみに青嵐会で事務局長を務めた浜田幸一は、1983（昭和 58）年に中川一郎（元青嵐会代表世話人）が自死したのは、前年の自民党総裁選出馬など、福田の意向に翻弄された結果であるとして、福田の策士的な性格を指摘している[4]。浜田の証言から浮かび上がる老獪な福田像はどこまで正確と言えるのか。本書の描く福田像とは対照的であるだけに気になるところである。

第 2 は福田が日中平和友好条約締結にこだわった理由である。本書を通じて、福田が対ソ関係にも慎重に配慮しながら日中交渉に臨んでいたことは分かったが、「全方位平和外交」という言葉だけですべてを説明するのは難しいように思う。もともと福田派には運輸族議員が多く、1974（昭和 49）年の日中航空協定

を新しい国際空路開拓という面から肯定する空気があった。福田自身が市場としての中国をどう捉えていたのか、という点も検討課題として付け加えると、福田内閣期の外交政策と経済政策が持つ新しい側面が見えてくるのではないか。また、福田は中ソ対立という国際政治状況の中で日本が中国に接近する意味をどう捉えていたのか。第 16 章では福田がパワー・ポリティックスの論理と切り離して日中関係を捉えていたと指摘しており、のちの中曽根内閣期との比較があれば、中ソ対立と日中関係の相関関係をより明確にできたように思う。

ちなみに青嵐会の一員として日中平和友好条約に反対姿勢を貫いた中山正暉氏は、数年後、ある自民党代議士のパーティーで首相退任後の福田と会った際、「あれ［日中平和友好条約］は間違いだった」と言われたという[5]。そのことを踏まえると、戦後政治外交史における福田の役割はまだ解明すべき問題が残されていると言えよう。

以上のように、本書にはいくつかの疑問点や課題が存在する。しかしながら、一政治家の評伝にとどまらず、近現代日本の政治外交と経済を理解する上で豊かな知見を提供していることに変わりはない。今回、このように重厚な書籍が刊行されたことは戦後日本の政治外交史や自民党研究に関心のある学生・研究者にとって、画期的な出来事である。本書の副題にある「戦後」は平成世代の学生にすれば、古い言葉のように聞こえるかもしれないが、歴史を学ぶことは今日の制度や組織、政策を理解する上で大切なことである。教職課程を履修する学生諸君にも挑戦を勧めたいテキストである。

（岩波書店、2021 年 6 月刊行、680 頁、定価 4,800 円）

---

[1] 拙稿「青嵐会における自主憲法制定構想の展開と挫折」(『憲法研究』第 53 号、2021 年)、同「戦後日本の国土開発構想と自民党政治についての覚書―『日本列島改造論』と青嵐会の比較から―」(『高崎商科大学論集』第 36 号、2021 年)。

[2] 文藝春秋編『統一教会　何が問題なのか』（文春文庫、2022 年）38 頁。

[3] 井深雄二「教育基本法と立憲主義―新旧教育基本法の歴史的本質―」(『奈良教育大学紀要』第 1 号、2015 年）6 頁。

[4] 浜田幸一『日本をダメにした九人の政治家』（講談社、1993 年）141～149 頁。

[5] 2021 年 4 月 25 日、電話でのインタビュー。

【図書館総合演習記録】

図書館総合演習を終えて

3120062　伊津野智哉

私は図書館総合演習を終えて印象に残ったことが3つあり、それについて振り返りたいと思います。

1つ目は、亜細亜大学図書館を案内してもらったことです。コロナの影響により、私は2年間大学に通うことが出来なかったため、この授業を受けるまでは図書館に行くこともできず、どこにあるかも知りませんでした。実際に案内されてみて、学習スペースや授業で使うような参考資料が置かれていることを知らないのは勿体無いと思いました。亜細亜大学では図書館は太田耕造記念館となっており、図書館と認識しづらいのが問題だと感じました。せっかく、大学に学費を払って図書館が維持されているので、これを機会に今後も活用していこうと思いました。

2つ目は、実際に図書館の業務を体験させてもらったことが印象に残っています。実習では、大学図書館内の目録データベースに受け入れた雑誌の書誌事項を入力したり、海外の様々な新聞を同じ新聞ごとに仕分けする作業を体験することが出来ました。作業を行う中で印象に残ったのは、司書さんが一日に捌く雑誌や新聞の量です。定期的に刊行されている雑誌の場合、出版社から一日30～100タイトル程が届き、大学図書館で受け入れをしていますので、かなりの頻度で大量に送られてきます。その上、新聞の場合、国内外から送られてくるため捌く量が多く、予想以上の仕事量に衝撃を受けました。また、亜細亜大学は、国外や語学への関心が強い為、国外の雑誌記事や新聞が置かれており、当たり前の事ですが大学の特色や学生に合わせた選書をしていることを再確認しました。このように大変な仕事を毎日こなしながら、私たちの図書館総合演習に協力してくれていると思うと、実習によりやる気が出て、頑張ろうという気持ちになりました。

3つ目は、国分寺の紀伊国屋書店で実際に選書、ポップ作りをしたことです。コロナ禍の影響でここ数年間誰かと協力して何かを達成する機会が全くなかったので、このような経験ができて良かったと思いました。実際に、選書をしていて気をつけたことは、自分の趣味や価値観を押し付けないことです。選書は大学のお金で行っているため、学生や大学に役立つ本でなければならないので、始めは選書に躊躇しました。しかし、一冊決まるとその後は順調に本を選ぶことができ、誰よりも多く本を選んでいました。また、今回のタイトルが「誰かに思わずお勧めしたくなる本」ということで、選書の際に他の学生のことを考えながら選ぶことができて良かったと思いました。本を大量に選べたのは良かったのですが、その後のポップ作りに一番苦労しました。しかし、司書さんが忙しい中、授業時間外にも協力してくださり無事完成することが出来た時は達成感があふれてきて、頑張って良かったと思えました。

以上、全13回の授業を終えて、改めて図書館の役割とは、司書さんの業務内容を実際に体験することで理解でき充実度の高い講義だったと思いました。また、忙しい中、好意で司書さんが私たちの演習に協力してくださり、私たちもこの授業を頑張ろうという気持ちになれました。また、受講人数は少なかったですが、グループワークをする機会が持てたので良い経験が出来たと思いました。

【図書館総合演習記録】

図書館総合演習を終えて

6121045 菊政彩音

この図書館総合演習では雑誌記事、新聞の登録、図書の書架出し、紀伊國屋書店に置く本の選書、POP作りなどたくさんの経験をさせていただきました。そこで図書館総合演習を終えて印象に残ったこと、学んだことを３つ述べていきたいと思います。

まず1つ目は、演習ならではの良さを感じたところです。去年まではコロナが流行していたため、オンラインでの授業でしたが、今年から対面の授業が開始されました。私が前期の授業の中で対面に変わって一番よかったと感じた授業は図書館総合演習だと思います。例えば亜細亜大学図書館見学では、一番上の階の貴重書など普段は見ることのできない本などを直接見ることができました。また、POP作りの時には、材料を欲しい時にいつでももらうことができたため、何度も作り直すことができました。また、過去のPOPを直接見ることができ、細かいところまで工夫されていることを見て、自分のPOP作成に生かすことができました。

２つ目は実際に図書館司書の方々の仕事を体験できたことです。雑誌記事だけではなく、海外の新聞をインターネットで登録して、実際に書架に出すところまで体験させていただきました。また、本のタイトルの部分に糊付けし、本のカバーをつける作業など普段できないことをして、今までは司書になるための座学が中心でしたが、初めて演習でコミュニケーションをとりながら作業することができ、とても楽しかったです。

３つ目は選書とPOP作成です。今回の選書の上でのテーマは「思わず誰かに教えたくなる本」でした。今までビブリオバトルなど自分が好きな本をまだ読んだことがない不特定多数の人に薦めることはあったけれど、その本を読む相手のことを意識して自分が好きな本ではない選書したことは無かったので、とても苦労しました。今回私が選んだ本は文庫本２つ、自己啓発本２つ、美術作品の図鑑１つです。１つの種類に偏らないように、ポップのイメージが付きやすいようにという部分を特に意識して選書しました。また、文庫本は一つ上下に分かれている長編物語を選び、自己啓発本は学生に関係する本を意識して選書をしました。POP作成時に苦戦した部分は著作権です。選書した本の中に「はてしない物語」という本のPOPで、この本は「ネバーエンディングストーリー」というタイトルで映画化されていてとても人気があり、私は絵が苦手なので当時のポスターを使用しようとしましたが、著作権の関係上使用することができませんでした。しかし、古い本をイメージして紙を少しくしゃくしゃにし、本の切れ端のようなものを印刷して貼るととても見栄えがよく見えました。このようにPOP作成は通り過ぎる人をいかにして引き付けるかという難しい作業で、たくさんの工夫を必要とする作業でしたが、無事に全てのPOPを作ることができました。

今回図書館演習で図書館や書店での本の貸し借りや買う以外の部分を体験することができました。また、実践的な部分が多く充実した授業だったと感じます。最後に安形先生、図書館員の方々、紀伊國屋書店の方々、本当にありがとうございました。

成長の日々

法学部法律学科 4 年
佐伯　楓

1. 実習中の授業準備

授業で扱う教科書をよく読み、授業課題や伝えたいことを考えながらパワーポイントやワークシートを作成した。生徒が学ぶ以上に自分で調べ、学ばなければならないと感じた。毎回の授業でねらいを決め、導入、展開、まとめを構成した。クラスによって反応の差が生まれ、場合によってはやり方を変える必要があったが、指導教諭と話し合いながらその都度対応した。伝えなければならないことは重点的に教えられるように努めた。私は導入とまとめの仕方で失敗をしてしまったが、その失敗を次に生かすことができた。そして教材研究がいかに大切なことか実感できた。

2. 実習中の過ごし方

私が持たせていただいたクラスの雰囲気は明るく落ち着いていて、一人ひとり思いやりのある優しいクラスだった。初日から優しく声をかけてくれたり、私が困らないように協力して行動してくれたりと、一日目から生徒に助けられてばかりだった。クラスの子だけではなく 3 学年の生徒みんながたくさん声をかけてくれて、重い荷物を持ってくれたり、授業で発言してくれたり、分からないことは丁寧に教えてくれた。授業を実際に行い始めてからは、毎日が反省と改善の繰り返しだった。先生からいただいたアドバイスを次の授業で反映できるよう、同じ授業でも少しずつ変化させて、限られた時間の中で生徒たちに伝えたいことをどのように伝えるのかを常に考えながら進めていった。生徒一人ひとりの対応の仕方やパワーポイントの工夫、導入やまとめ方の工夫など、改善点が本当にたくさんあった。指導教諭の先生は、親身になってたくさんの時間をかけて指導してくださり、一緒に授業を作り上げていった。授業だけではなく、日常生活の態度や社会で必要な知識もたくさん吸収し、学んだ。朝は早く学校に行き教室の掃除を行い、挨拶運動を行った。放課後は部活動の見学と下校指導、そして掃除と教材研究を行った。生徒との信頼関係を築くためにできるだけ多くの時間生徒と関わるよう努めた。また、先生方からも多くのことを吸収し、仕事を奪えるようによく考えながら行動した。実習期間、教職員や生徒に失礼のない態度を心がけた。

３．印象に残っている出来事

私が印象に残っていることは、まず一つ目は教師の仕事量の多さである。授業の準備、教材研究はもちろん、挨拶運動や下校指導、生徒指導や部活動、そしてプリントのコメント返しや毎日の日誌チェックなど、一日にたくさんの量の仕事があることを知った。限られた時間の中で、時間をどう効率的に使うかがとても大切だと実感した。二つ目は、最終日のサプライズである。実習の最終日に、クラスでお別れ会を行った。お別れ会は生徒たちがすべて計画し、進行してくれた。最後には、メッセージとお手紙、そして大きな花束をプレゼントしてくれた。さらに、3 学年の生徒全員から「ひまわりの約束」の歌のプレゼントをいただいた。大切な時間を削って素敵なプレゼントを用意してくれたことは、一生の宝物になった。先生方や生徒に恵まれ、本当に充実した 3 週間になった。

４．実習で学んだこと

実習で指導教諭の先生が、一番に感謝すべきなのは「生徒」たちだとおっしゃられていた。私が授業でつまずいてしまったときは生徒たちが積極的に発言してくれたり、クラスの雰囲気を

盛り上げてくれたり、授業しやすい環境を作ってくれた。気持ちが沈んでいたときも、笑顔で「楓先生」と手を振ってくれたり、「授業楽しみです」と言ってくれたり、クラスの毎日の生活日誌でも温かいコメントでたくさん励まされ、元気をもらい、助けられてばっかりの毎日だった。先生方や生徒から学ぶことばかりだった教育実習だったが、とても貴重な時間だったのと同時に、教師の大変さも痛感した。けれども、それ以上にやりがいを感じ、苦労を上回る何かがあることでさらに頑張ろうと思えるのだと実感した。実習を受け入れてくださったことに感謝し、今回得た様々な経験や知識、思いを大切にして、今後の人生に活かしながら精一杯努力していきたい。

教育実習報告書

法部法律学科 4 年
新海　僚久

1. 教育実習事前準備

私は教育実習が決まるよりも前から母校に訪れたタイミングで「教育実習の際にはお世話になります」というような話を既にお世話になった先生方、社会科の先生方に話をしていました。

教育実習が決まった段階でもう一度担当の先生方や高校の先生方に挨拶をして回りました。担当の先生が決まってすぐに打ち合わせをするために担当の先生に時間を作っていただきました。また、その打ち合わせの中で使用する教科書や担当する範囲、また、先生の連絡先を教えていただきました。そこからは教育実習までひたすら教科書や資料集を読み込んでいました。ざっくりとではありますが、担当する授業のだいたいのコマ数や担当クラスを聞くことができていたため、どんなペースでどんな題材を扱うかなどかなり考えました。

2. 教育実習中の活動

教育実習が始まると、授業準備や教材研究、プリントの準備など、それまで以上に入念に準備を進める必要があったため、時間があれば教科書や資料集、問題集を読み込んでいました。準備室に置いてある教材はいくらでも借りることができたため、とても助かっていたのですが、その膨大な量を生徒の理解しやすいものにまとめる作業がとても大変でした。担当してくれた先生は自分の知っていることの半分を伝えることを心がけるようにと話してくださいました。おかげで、授業内に全て詰め込もうとしていた時と比べて気持ちに余裕ができたと思います。他にもその授業で何を伝えたいのかを明確にする、今回の重要なポイントがどこなのかを始めに伝えるなど、授業にメリハリをつけるために必要なことを伝え続けてくださりました。

授業準備ばかりしているのが実習生ではなく、授業見学もとても重要なものだと思います。私は、自分が授業を持っていない日は基本的に授業を見学するようにしていました。特に初めの数日間は活動に余裕があるため、詰め込んでいたことを覚えています。まず社会科の先生方の授業をかたっぱしから見学させていただき、その後は他教科の先生方にも協力していただき、授業を見学させていただきました。理由としては社会科の先生方の授業を見た後に他教科の先生方の授業を見学すると、科目ごとの授業の進め方の違いや、社会科の授業だけでは気が付けない教材の活用方法を見つけられるかもしれないと担当の先生よりアドバイスをいただいたためです。実際、私は初めは黒板のみで授業を進めていたのですが、社会科や他教科の授業を見学しているうちにパワーポイントを活用した方が生徒も興味を示しやすく、さらに伝えたいことが伝えやすいと感じました。また、理解度を確認するために小テストや生徒同士で話し合わせる時間もできるだけ取るようにしていました。単調な授業ではどうしても眠くなりやすい科目なため、できる限り毎回の授業に変化をつけ、生徒のやる気や興味を保つように考え続けていました。高校生は SNS やアニメ、ドラマなどの題材を用いることでより興味を持ちやすくなるということは、自分が高校生の頃の経験からわかっていたため、できる限り生徒に身近なところから教材になるものを探す作業も授業を成功させるために重要なことだと考えていました。また、生徒が良い視点、良い考え方、意見を出した際にはそれをみんなの前で褒めるということもしていました。きちんと評価しますという姿勢を見せることで生徒は意欲を見せてくれているように感じました。

授業の出来に大きく関係するものとして生徒との普段のコミュニケーションも大切だと考えています。私はこれに気が付くのが少し遅かったというのが反省点です。学校柄、生徒は実習生に興味を持ち、積極的に声をかけてくれていたのですが、気が付く前の私は雑談をするだけで終わっていました。生徒との会話の中で、最近の流行や興味のある話題、どんな先生の授業が楽しくてどんな授業は取り組みにくいのかなど、実習生だからこそ聞くことのできる話がたくさんあり、それをもとに授業を作ることで生徒が積極的に参加してくれる良い授業を作っていくことができると気が付いてからは、生徒に「授業どうだった？」など聞くようにしていました。それ以降は授業中の生徒の反応がよく感じられるようになり、寝ている生徒はいなくなったように感じます。

3. 研究授業

研究授業では、それまでの経験を活かして、3週間で最高の授業ができるようにより入念に準備を進めました。指導案もそれまでよりも細かく作成し、できるだけ多くの先生方にアドバイスをしていただきました。空き教室で実際の授業を想定し、同じタイミングで実習を行っている実習生同士で生徒役になり、授業を受け合うなどもしました。そうして何度も試行錯誤を繰り返して準備を進めたこともあり、研究授業とはいえど、それまでよりもうまく授業を進めることができたのではないかと感じました。見に来てくださった先生方や担当の先生からも一番良かったという声をかけていただき、未熟ながら少し自信がついたように感じたことを覚えています。研究授業というと、教育実習の集大成のように感じられますが、普段の授業のうちの1コマだと捉えて授業を行うべきという担当の先生からかけられた言葉で気持ちが楽になったことも覚えています。もちろん、気を抜いていいというわけではありませんが、普段からきちんと授業を行っており、反省や改善を繰り返していれば研究授業を行う頃には 3 週間の中で一番うまくいったと感じられるようになると思います。

4. 実習を終えて

実習を終えた今感じることは、どんなに濃い授業を教室で行ったとしても、実際に現場で経験する以上の学びを得ることは出来ないということです。それまでにどれだけ準備しても予定通りいくことの方が少ないですし、私自身も身体測定で50分のうち半分使えなくなるなど大きく予定がずれ、初めに予定していた進め方や授業案はほとんど使いませんでしたが、その時間は問題集をみんなで解く時間にするなどして乗り切りました。実習前からあまりにも細かく予定を立て、実際に実習を行った際にそれ通りいかないと焦りやストレスが生まれるため、実習前は教科書などをよく読みこみ、理解したうえで、こんな風に進められたらいいなぐらいのざっくりした予定くらいの方がきもちに余裕ができるのかもしれません。しかし、ある程度予定を組んだ方が、変更があっても少し手直しするだけで済むという見方もできます。要するに、気持ちに余裕を持つことが大切だということではないでしょうか。その授業で予定していた範囲が終わらずとも、焦らずに授業の予定を組み替えるなどすれば、そこまで大きな問題はないと思います。

実習への準備と実習から得た学び

国際関係学部国際関係学科 4 年
吉成　伊織

1. 教育実習の位置付け

教育実習を行う目的はやはり、「現場でしか体験できないことから学ぶ」ことだと私は考えています。当たり前のことですが、大学で教育の理論を学ぶだけで人間性豊かで指導力のある教員になることは難しいです。なぜなら、大学では模擬授業をしていても生徒役は大学生というように実際の生徒に接する機会は少ないし、学校のリアルな教育現場を知ることができないからです。多くの人は、約 40 人の生徒の前で模擬ではなく実際の授業を行ったり、クラス運営を行ったり等の初めてのことを教育実習で体験することになると思います。現場で教員や生徒一人ひとりと接することで、今まで学んできた理論をどのように活用すべきか、授業内外で生徒とどのように接すれば信頼関係を築くことができるのか、自分に不足しているものは何かを発見することができます。また、現場を見る事で自分の将来について改めて考える機会にもなります。

以上のことから私は、「現場でしか体験できないことから学ぶ」ために高校で 3 週間の教育実習を行ってきました。担当した学年は 1 年生、科目は英語です。最後まで読んで頂けたら幸いです。

2. 実習に向けた準備

まず長期的に行った準備は、①英語（担当科目）の能力向上、②指導力アップです。①に関しては、留学や英会話教室に通ったりはせず、大学で取れる英語の授業に一生懸命取り組む事で準備しました。英語を使う機会を増やすことで、英語の能力が改善し、TOEIC の点数も入学時から大幅に向上しました。科目に関する能力は、生徒に教える時だけでなく、教材研究の際にも知識が役に立つので準備しておくと良いと思います。次に②は、塾講師のアルバイトで実際の生徒に教えることで指導力を身につけました。小学生から高校生まで接する機会があったので、学年に合わせた指導や、各個性にあわせた教え方を試行錯誤することである程度の指導力は身につけることができたと思います。また、教えることで英語の知識の定着度が上がったり、生徒との適切な距離を保ったコミュニケーションの取り方を身につけたりするのにも塾講師のアルバイトは役に立ちました。

そして、直前の準備としては①質問をまとめておく、②挨拶文を送る準備をしました。①は実習 5 日前に打ち合わせがあったので、主に科目に関する質問を用意していきました。具体的には、普段の授業の様子や使っている資料・機器、オールイングリッシュで行うか、生徒の性質等です。生徒を混乱させないために普段の授業スタイルに関する質問が多かったです。②に関しては、忙しい中、実習を受け入れてくださる母校へ感謝、決意、礼儀を示すために葉書を出しました。教材研究については、打ち合わせ時に教科書を借り、担当範囲を知ることができたのですが、5 日前だったのであまり深く教材研究は行えませんでした。授業の進捗度によっては難しいかもしれませんが、もし実習校から教えて頂けるのならば、早めに教材研究を行うと良いと思います。

3. 実習中の過ごし方

実習中、具体的にどのようなスケジュールで動くのか不安な人もいると思うので、ここで紹介します。1 日の勤務時間は 8 時 25 分から 16 時 55 分です。しかし、朝は早めに来るように打ち合わせ時に実習校から言われていたのと、放課後も授業準備や担当クラスの生徒たちのレポート、日誌のチェック、部活等のために勤務時間通りではありません。実際に朝は 8 時 25 分から打

ち合わせが始まるので、7 時 50 分には出勤簿に印鑑を押し、控え室にいるようにしていました。放課後は、遅いときは 19 時半に退勤し、授業準備や教材研究は家でも行っていました。

1 日の流れを簡潔に述べると、7 時 50 分に出勤し、打ち合わせまで教材研究等の作業を行い、8 時 25 分からは職員室で朝の打ち合わせに参加します。その後は、担当クラスで HR を行い、1～4 時限目は授業見学や教材研究、授業準備、授業を行っていました。昼食は、12 時半～13 時 10 分に控え室でとり、5～7 時限目も同様に見学や教材研究等を行っていました。授業が終わった後は、15 分ほど清掃の時間があるので担当クラスの教室に行き、生徒と一緒に掃除します。終わった後はそのまま教室で SHR を行い、控え室での作業に戻ります。放課後（16 時 10 分～）は、日誌や生徒のレポートへのコメント書き、授業準備、授業見学の申し込み、実習録への記入、部活をしていました。19 時半に退勤し、夕食や入浴を済ませた後も 1 時過ぎまで教材研究、授業準備をします。その後、就寝するという 1 日の流れです。

3 週間のスケジュールとしては私の場合、初めの 9 日間は授業見学や教材研究を行い、残りの 6 日間は毎日基本 1 時限（45 分）授業をし、研究授業は実際に授業をし始めて 4 回目の時にしました。次の章からは、より具体的にクラス運営と授業について述べます。

4. クラス運営

実習中、担当教科の授業以外にも 1 クラスの運営を経験します。そのクラスで HR を行ったり、清掃や学年集会・行事に参加したりします。HR を経験するだけでなく、行事や日誌、レポートのコメント書き等で他の生徒と比べて担当クラスの生徒とはより密にコミュニケーションを取ることができます。

私は 1－6 クラスを担当しました。実習初日、教壇に立ち 39 人の前で自己紹介をしました。塾講師として生徒の前に立つことはありましたが、ここまで大きなクラスの前に立つことはなかったので声が震えるほど緊張しました。また、実習校では、6 組が成績で分けられた選抜クラスとなっています。そのためか 6 組は他のクラスと比較すると、大人しく静かで、リアクションや発言がしにくい雰囲気がなんとなくあります。したがって、生徒との信頼関係を築くこと、話しかけやすい、意見を述べやすい先生になることが必要であると感じました。そこで、清掃や行事の時に積極的に話しかけることや生徒の特徴から名前を覚えることで関係を築こうと努力しました。しかし、クラス全員の一人ひとりとコミュニケーションを取ろうとすることはなかなか難しいです。そんな時、1－6 クラスの担任の先生がアドバイスをくださいました。例えば、私が HR を初めて担当させて頂いたとき、緊張もあり、連絡事項を淡々と伝えるだけで終わってしまいました。その様子をみて先生は「HR は事務的に行おうと思えばできてしまう。しかし、授業外で唯一クラスの全員とコミュニケーションをとれる大切な時間でもある。だからこそ、連絡事項を伝えるだけでなく、関連するニュースを取り上げたり、教員自身の意見を述べたりすることで人間味のある HR にすると生徒にとって親しみやすい担任になることができる。」とアドバイスをしてくださいました。このアドバイスを受けて、人間味のある HR にするためにテスト後、行事後の切り替え方や季節の変わり目の体調管理といったその時期に合わせた話や、連絡事項に関連するニュースを取り上げました。このような努力の結果、生徒から話しかけてくれるようになり、HR や授業の際にもリアクションを取ってくれるようになりました。最終日には、色紙をもらい、泣いてくれる生徒もいたので嬉しかったです。

このようにクラス運営からは、生徒との信頼関係の築き方を学ぶことができました。それと同時に課題を見つける事も出来ました。それは、人間味のある教員でいるためには不可欠な教養が不足していることです。毎朝、HR で取り上げる話題に悩み、自分の情報の少なさ、話の引き出しの少なさを実感しました。今後はより教養を深めるために、情報収集や様々な経験をして改

善したいです。

5. 授業

ここではどのような授業を行ったのか、見学または、授業準備の時にしたこと、発見した課題を紹介していきます。前半で紹介したように、初めの 9 日間は授業見学や教材研究を行い、残りの 6 日間は毎日基本 1 時限（45 分）授業をしました。英語コミュニケーションも論理表現もどちらの授業も行いました。また、ALT の先生と一緒に英語の授業を行う Team Teaching と、英語以外に大学についての授業もしました。

見学の期間は、1 日 3、4 時限程度、ほぼ全員の英語教員の授業を見学させて頂きました。特に論理表現に関しては指導要領の改訂に伴い、その時の高校 1 年生から導入されたものだったので、授業見学を何度かしてどのように行うべきかを考えました。先生によって板書や英語の発音（よりナチュラルな発音か、日本語寄りの発音か）、使っている資料が異なっているので、複数の先生に見学させてもらうと良いと思います。見学をする際は、以下のポイントを見ていました。①クラスの規模、②展開（時間配分）、③使っている資料、④教科書・資料の使い方、⑤関心の引き方、⑥まとめの仕方、⑦発問・説明の工夫、⑧板書の工夫、⑨生徒の反応です。これは教育実習録を参考にしているので、実習録を是非確認してみてください。このポイントに注目しながら、メモ帳に書き込んでいました。また、見学するクラスによっては、授業を持つことになるので教室中を見回りしながら、授業の邪魔にならない程度でコミュニケーションを取ることもしていました。

授業準備では、教材研究と指導案作成、資料作成をしました。教材研究の際は、①教科書を読み込む、②精読、③単語や本文の発音、イントネーションを確認する、④発音練習を何度も行う、この 4 段階で研究をしました。①の段階では、本文を一通り読み、本文内容とその単元で扱う文法を把握して、②の時に指示語の内容をどのように読み取るか、本文で注目して欲しい文法、単語の細かい意味にチェックをしていました。③、④に関しては、生徒のお手本となる発音に不備がないように何度も確認していました。指導案は、研究授業以外は作らなくても良いとのことでしたが、展開が分かる簡単な指導案は毎授業提出していました。指導案を作成する際には、実習録に載っている例や同じ教科の実習生とお互いに相談し合いながらつくりました。また、先に研究授業を行った実習生の指導案をもらって参考にさせてもらう事もありました。実習中もそうですが、実習前から指導案を書く練習をしたり、いろんな人の指導案を見て勉強したりすると良いと思います。資料作成では、授業内で使うプリントやパワーポイントを作りました。授業内資料も実習前から模擬授業等で実際に作ってみたり、他の人の資料を参考に勉強したりすると良いと思います。

そして、実習で授業をして発見できた課題として、①板書の構成、②生徒への問いかけを増やす、③教員が英語を使う量をもっと増やす、の 3 点が見つかりました。①は授業終了後に板書を見て授業内容を復習できるか、色盲の生徒にとっても見やすい色使いになっているかというポイントが押さえられていませんでした。また、授業時間が少なく焦ってついしてしまうのですが、板書をしながら話すという問題もありました。②も同じ理由で時間を優先しすぎて、生徒への問いかけが少なくなってしまいました。もっと指示語の内容を聞く等で機会を意識的に増やそうと考えました。③は、指示やリアクションで英語を使っていたのですが、もっと増やして生徒が音から英語に触れる機会を十分に作ると良いと助言を頂きました。今回の発見を基に、板書計画と授業の時間配分を見直し、見やすい、復習しやすい、生徒が英語を使う・聞く機会が十分にある授業になるように改善したいです。

6. 反省と今後の課題

実習の反省としては、①事前準備不足、②他教科の授業も見学することです。①に関しては、教材研究に多くの時間を使う必要があるため、そ

の分、授業見学や部活等に割ける時間が減ってしまったことです。さらに授業に関しては、コロナウイルスのためにオンラインで行ったり、パワーポイントでの模擬授業をしたりと、板書や生徒とのやりとりがあまり練習できていなかったと思います。教材研究や板書といったものは事前にもっと準備しておくべきだと実感しました。②についても、やはり教材研究に時間を割いたために英語以外の授業をあまり見学できませんでした。他教科でも生徒との授業内でのコミュニケーションの取り方などは勉強になると思うので、もっと見学に行くべきでした。

今後の課題は、前述したように、①教養不足、②板書の構成、③生徒への問いかけを増やす、④教員が英語を使う量をもっと増やす、この 4 点を改善する事です。そのために、情報収集や経験をすることと板書計画と授業の時間配分、生徒への問いかけ・反応の見直しを行っていきます。

7. これから実習を控えた後輩に伝えたいこと

これから実習に行く人に伝えたいことは、「事前準備をしっかりと行う」と言うことです。私が反省と課題で挙げているものは、事前にしっかりと準備をすることで対策できると思います。それに、準備をすることで損をすることはないです。模擬授業等の機会を利用して頑張ってください。

また、実習生が経験させてもらえる仕事は、教員の仕事のほんの一部ですが、やることが多く実習中に驚く人もいると思います。睡眠時間も十分にとれませんが、どれも教育に関わる上で大切な事であり、実際に生徒と関わっているとやりがいを感じることができます。実習後に後悔をすることがないように全力で取り組んでください。

最後まで読んで頂きありがとうございました。実習に向けて分からないことがあるときは、是非、周りの先生方や実習経験者を頼ってください。皆さんの教育実習が有意義なものになるよう祈っています。

限界を超えた３週間

国際関係学部国際関係学科 4 年
渡邊　武蔵

1. 教育実習での心構え

教育実習では、先生方や生徒たちに失礼のないようにすることを心掛けた。具体的には、私は英語を教える側であるが、同時に授業をさせていただき、今後の指導方法を学ぶ側でもある。そのため、先生方に助言をいただくときには、「お忙しいところ大変恐縮ですが、今お時間よろしいでしょうか。」と一言かけ、まずは自分の考えを述べたのち、助言をいただくようにした。そして、自分の捉え方が合っているかを確認する。

次に生徒たちに関しては、中学生と純粋な心を持っているので、自分の発言や言葉遣いに細心の注意を心掛けた。生徒たちにとって大人の影響は強く、自分が何気なく放った言葉が、生徒の心を傷つけてしまったり、人生を変えてしまったりすることがある。そのため、まずは生徒の声に耳を傾け、生徒自身に考えさせるようにした。もちろん、若者言葉やハラスメントに関わるような発言は控え、生徒の自己肯定感を高められるような発言を意識した。

2. 実習中の過ごし方

実習中は主に生徒と触れ合っていた。指導教諭から生徒と触れ合うようにと言われたからだが、この実習期間が過ぎればほとんど関わる機会がなくなってしまうので、時間が許される限り生徒との時間を大切にした。そのため、8 時半から始まる担当クラスでの朝ホームルームから 18 時に終わるバスケットボール部まで生徒との時間を過ごした。授業時間以外にも休み時間に担当クラスに行き、男女関係なしに話しかけ、生徒の性格や考えを理解しようと心掛けた。その結果、1 週間を過ぎたあたりから生徒から声を掛けられるようになり、実習最終日の「渡邊先生を送る会」では、担当した 2 年生の表情が明るく、記念写真では私の隣に行きたいと言ってくれる生徒もいた。加えて、週休日での部活動の練習が終わった後、私に会いに来てくれる生徒もおり、生徒と一緒にいる時間が非常に大切だということをこの実習期間で感じた。

３．授業準備

私の場合、事前打ち合わせを行ったのが実習約 1 ヶ月前だった。そのため、1 ヶ月の期間で範囲の概要や単語の意味を理解し、どのようにしたら生徒の興味を引きながら授業を進めることができるかを考えながら授業案を作成した。しかし、実際の現場では指導教諭が作られた授業プリントを使用していたので、指導教諭と同じような授業方法になるように、流れを確認→指導案作成→指導教諭との細かい部分の確認→授業研究という流れで日々過ごしていた。また、学校にいる時間も限られているので、指導教諭と次の日の打ち合わせを行った後、家で授業準備をしていた。

指導教諭と同じような授業方法にした意図としては、急に授業形態が変わってしまっては生徒に負担がかかってしまい、理解に苦しんでしまうと考えたため、指導教諭が進められていた流れと同じように作成した。そのおかげで、授業もスムーズに進行した。

研究授業に関しては、指導教諭と同じようなプリントを作成しつつも私のオリジナルを混ぜた。その結果、生徒は流れを掴み、加えて生徒の身近なものを取り上げることで、興味を引きつけ、且つ理解の促進に繋がり、生徒からも「分かりやすく、面白い内容だった」と好評を受けた。

４．印象に残っている出来事

初日・最終日の挨拶と体育大会である。

教育実習の初日に 2 年生全体の前で自己紹介をする機会があった。事前に指導教諭から何を話

せばよいかを伺い、自己紹介の時に名前と好きな食べ物を発表した。その結果、全体的に沈黙した微妙な空気が流れ、気まずい実習の始まりになった。しかし、3 週間多くの生徒と関わったことで、最終日の挨拶では、私の好きな食べ物を生徒は覚えており、生徒の表情も生き生きとしていた。

体育大会では、普段の授業で見せる姿とはまた異なった一面を見ることができた。加えて、担当していない3年生の生徒とも話す機会があり、貴重な時間となった。また体育大会の準備では多くの先生方と協力することで、あまり話したことのない先生とも話す機会があり、打ち解けることができた。そして、体育大会で一番印象に残ったのが、2 年生の同点優勝である。1 学年につき 2 クラスしかないが、どちらのクラスの生徒も一生懸命競技に参加しており、その結果同点になった。私は高校生までクラス対抗戦や誕生日別対抗戦に参加してきたが、同点優勝は一度も経験したことがない。そのため、今回の体育大会は思い出に残る一生に一度の貴重な体験となった。

４．実習で学んだこと

目的と手段を明確にすることである。教育実習に行く学生の大半が指導案を書くことになると思われる。そこで、自分の担当単元を教える上で、単元を学ぶ目的は何かを明確にした上で、その目的達成のためにどのような手段を用いるかを考える必要がある。目的と手段が明確でなければ、なんのためにその単元を学ぶのか、学んでも使い方が分からず、生徒のためにならない。そのため、生徒が理解に苦しまないように、ポイントを押さえ、端的に説明する。加えて、授業をしている時、プラスαで何かを教えたくなってしまう瞬間があるが、重要なポイントの場面だと、生徒は何が重要なのか記憶の阻害になってしまうので、極力雑談を入れずに進行させる。

もう一つは、教員になり続けるということは非常に大変だということである。私は 3 週間という期間の中で、2 学年分の英語科の授業だけでなく、道徳の授業、男女バスケットボール部の顧問、担当クラスの学級指導、体育大会に関わるなど幅広く活動してきた。正直に言って 24 時間だけでは時間が圧倒的に足りない。時には寝る時間も削り、徹夜する日々もあった。しかし、指導教諭は「この仕事は手を抜けばすぐに終わる。しかし、突き詰めれば終わりが見えない。それでも、深く突き詰めれば生徒のためになる。」とおっしゃっていた。私が取り組んできたこと以外にも先生方は生活指導や学年主任などの役職に就かれており、日々忙しい姿を見ていたが、先生方が口を揃えて言っていたのは「子どもが好きだから、生徒たちのためなら頑張れる、そこにやりがいを感じている」だった。私自身苦労した 3 週間だったが、3 週間乗り越えたからこそ、すべてが報われ、教師を続ける魅力を感じた。

今後実習に行かれる方たちも、実習校によって辛かったり、楽だと感じたりする場面が多々あると思われるが、実際の教育現場を直接体験して肌で感じてほしい。また、約４年間大学の座学で学んできた教育現場と実際に直面する教育現場の違いなども捉えながら取り組んでみると実のある実習になると私は考えている。

５．今後実習に行かれる後輩の皆様へ

とにかく失敗を恐れず、何事にも挑戦してみてほしい。変な遠慮はせず、「させていただきます」という謙虚な心を持ちながら、取り組んでほしい。私たちは何十年も教壇に立ってきたベテランの教師でもなければ、凄腕若手教師・教育実習生でもない。塾の講師やボランティアを経験し、子どもたちと触れ合ってきた方もいると思われるが、学校内に入り、何かを教える機会は滅多にないと考えている。そのため、まずは挑戦し、終わった後に反省すれば良い。そのようにすることで、自ずと知識と経験が蓄積され、実習の後半に活かされてくると思われる。「実習で学んだこと」でも伝えたが、この 2 週間・3 週間の実習は大変だと感じる場面が多々ある。まずは何事にも挑戦し、教師のやりがいや醍醐味というものを直接肌で感じてほしいと思う。

各学部の卒業単位取得に加え、授業数が増える教育課程の取得にも力を入れ、4 年間続けてこられてきた皆さんならきっと乗り越えられると思う。教育実習は学んできたことを実際に披露する集大成の場でもあるので、自信を持って取り組んできてください。

実習中に書きとったメモ

- 指示は明確に出す。
- 教師が話す時間と黒板に書く時間を減らし、生徒が活動する時間を増やす。
- クラスに全員いるか確認してから授業を始める。
- 適切な日本語や言葉遣いを用いり、言葉の重みを理解する。
- 生徒たちの技量を知る。
- 授業の構成は順番ではなく、逆説的に考える。
- 何回も授業を行っていれば生徒は流れを理解する
- 授業は必ず授業時間内に終わらせる。

◇教職課程登録者数(秋学期合計)

区　　分	1年	2年	3年	4年	合計
	総　数	総　数	総　数	総　数	総　数
経営学部　経営学科	8	10	6	13	37
経済学部　経済学科	5	14	7	9	35
法学部　法律学科	21	16	23	12	72
国際関係学部　国際関係学科(社会)	6	7	5	3	21
国際関係学部　国際関係学科(英語)	6	9	10	4	29
国際関係学部 多文化コミュニケーション学科(社会)	2	2		1	5
国際関係学部 多文化コミュニケーション学科(英語)	3	3	1	1	8
大学合計	51	61	52	43	207

◇図書館学課程登録者数(春学期合計)

区　　分	1年	2年	3年	4年	合計
	総　数	総　数	総　数	総　数	総　数
経営学部　経営学科		3	3	2	8
経営学部 ホスピタリティ・マネジメント学科					0
経済学部　経済学科	3	3	1		7
法学部　法律学科	3	2		6	11
国際関係学部　国際関係学科	2	1	3	2	8
国際関係学部 多文化コミュニケーション学科		6	2	1	9
都市創造学部　都市創造学科	2	2	1	2	7
大学合計	10	17	10	13	50

◇社会教育主事課程登録者数(春学期合計)

区　　分	1年	2年	3年	4年	合計
	総　数	総　数	総　数	総　数	総　数
経営学部　経営学科				1	1
経営学部 ホスピタリティ・マネジメント学科					0
経済学部　経済学科				2	2
法学部　法律学科		1		1	2
国際関係学部　国際関係学科	1	1			2
国際関係学部 多文化コミュニケーション学科	2	1	1		4
都市創造学部　都市創造学科		1	1		2
大学合計	3	4	2	4	13

【2021年度資格取得者数】

【教育職員免許状一括申請授与件数】

学校種	教科	経営学部	経済学部	法学部	国際関係学部	科目等履修生	合計
中学校1種	社会	5	5	9	4	0	23
	英語				2	0	2
高等学校1種	公民	7	9	11	3	0	30
	商業	3				0	3
	英語				4	0	4
合計		15	14	20	13	0	62

【司書教諭資格申請予定者】

経営学部	経済学部	法学部	国際関係学部	科目等履修生	合計
0	0	1	2	0	3

【司書資格取得者】

経営学部	経済学部	法学部	国際関係学部	都市創造学部	科目等履修生	合計
2	0	4	3	2	0	11

【社会教育主事課程修了者】※「社会教育士」称号付与

経営学部	経済学部	法学部	国際関係学部	都市創造学部	科目等履修生	合計
1	2	1	0	0	0	4

【2021年度介護等体験活動実施状況】

特別支援学校(2日間)

学校名	経営学部	経済学部	法学部	国際関係学部	科目等履修生	合計
都立小金井特別支援学校	3	5	18	16	0	42

社会福祉施設(5日間)

社会福祉施設名	経営学部	経済学部	法学部	国際関係学部	科目等履修生	合計
青葉台さくら苑	0	1	1	3	0	5
デイホームゆりの木　石神井	0	1	0	1	0	2
代替措置適用(実習中止)	3	3	17	12	0	35

都道府県	実習校名	実習校住所	教科
北海道	北海道北見柏陽高等学校	北海道北見市	公民
埼玉県	埼玉県立所沢商業高等学校	埼玉県所沢市	商業
神奈川県	横浜商科大学高等学校	神奈川県横浜市	政治経済
岩手県	滝沢市立滝沢南中学校	岩手県滝沢市	社会
福井県	福井県立金津高等学校	福井県あわら市	公民
千葉県	成田市立成田中学校	千葉県成田市	社会
千葉県	船橋市立大穴中学校	千葉県船橋市	社会
広島県	広島市立口田中学校	広島県広島市	社会
山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	山梨県甲府市	商業
北海道	武修館高等学校	北海道釧路市	公民
兵庫県	神戸市立六甲アイランド高等学校	兵庫県神戸市	公民
岩手県	岩手県立盛岡商業高等学校	岩手県盛岡市	現代社会
千葉県	千葉県柏市立柏第五中学校	千葉県柏市	社会
山梨県	甲斐清和高等学校	山梨県甲府市	公民
新潟県	新潟県立長岡大手高等学校	新潟県長岡市	政治経済 公民
山梨県	富士学苑高等学校	山梨県富士吉田市	政治経済 現代社会
熊本県	開新高等学校	熊本県熊本市	公民
京都府	京都翔英高等学校	京都府宇治市	公民
岡山県	岡山理科大学附属高等学校	岡山県岡山市	公民
熊本県	秀岳館高等学校	熊本県八代市	公民
群馬県	前橋市立桂萱中学校	群馬県前橋市	社会
栃木県	真岡市立真岡西中学校	栃木県真岡市	社会
埼玉県	入間市立野田中学校	埼玉県入間市	社会
東京都	東京都立保谷高等学校	東京都西東京市	社会 公民
群馬県	高崎健康福祉大学高崎高等学校	群馬県高崎市	地歴公民
埼玉県	学校法人佐藤栄学園埼玉栄高等学校	埼玉県さいたま市	地理歴史（日本史）
千葉県	松戸市六実中学校	千葉県松戸市	社会
埼玉県	盈進学園東野高等学校	埼玉県入間市	地歴公民（公民）
鹿児島県	樟南高等学校	鹿児島県鹿児島市	公民
東京都	明治学院中学校・明治学院東村山高等学校	東京都東村山市	社会
愛知県	東邦高等学校	愛知県名古屋市	公民
愛知県	愛知県新城市立鳳来中学校	愛知県新城市	社会
神奈川県	横浜創英中学・高等学校	神奈川県横浜市	英語
埼玉県	埼玉県立秩父高等学校	埼玉県秩父市	公民
埼玉県	昌平高等学校	埼玉県北葛飾郡杉戸町	英語
東京都	昭和第一学園高等学校	東京都立川市	英語
新潟県	五泉市立村松桜中学校	新潟県五泉市	社会
大阪府	大阪産業大学付属高等学校	大阪府大阪市	英語
千葉県	千葉市立土気南中学校	千葉県千葉市	英語
群馬県	藤岡市立西中学校	群馬県藤岡市	社会

卒業生進路一覧

就職年度	卒業年度	学部	就職先	職名	教科
平成28年度	平28	経営学部	サポート教員(柏市)→柏市立光ヶ丘中学校	非常勤	社会
	平28	経営学部	板橋区立板橋第一中学校	専任	特別支援
	平28	法学部	私立米子北高等学校	非常勤	社会
	平28	国際関係学部	那覇市立松島中学校	常勤講師	英語
	平23	国際関係学部	平成国際大学 スポーツ健康科学部	助教	体育(コーチング学)
	平19	国際関係学部	東京都立青梅総合高等学校	常勤講師	英語
平成29年度	平29	経営学部	富山第一高等学校	非常勤	公民
	平29	経営学部	育英高等学校	非常勤	公民
	平29	法学部	名護市立大宮中学校	臨時任用	公民
	平29	国際関係学部	読谷村立読谷中学校	特別支援教育支援員	英語
	平26	経営学部	横浜市立高校	専任	商業
	平26	経営学部	根室高等学校	専任	商業
	平21	国際関係学部	新潟小学校	非常勤	
	平18	法学部	富島高等学校(宮崎県)	常勤	公民
平成30年度	平30	経営学部	船橋市立船橋特別支援学校	臨時任用	
	平30	経営学部	東京都立農業高等学校(定時制課程)	専任	地理歴史
	平30	経営学部	埼玉県上尾市立東中学校	臨時任用	社会
	平30	経営学部	私立関根学園高等学校	常勤講師	公民
	平30	経済学部	神奈川県立茅ヶ崎養護学校	臨時任用	特別支援
	平30	経済学部	私立山村国際高等学校	非常勤	公民
	平30	経済学部	千葉県習志野市立第二中学校	臨時任用	社会
	平30	法学部	福島県会津若松市立一箕中学校	臨時任用	社会
	平30	国際関係学部	千葉県匝瑳市立第二中学校	常勤講師	英語
	平28	法学部	長崎県立鶴洋高等学校	非常勤	体育
	平27	法学部	埼玉県小学校教員	専任	
	平25	経営学部	東京都小学校教員	専任	
	平24	経済学部	広島県庄原市立東城中学校 (特別支援学級)	臨時任用	
令和元年度	令1	経営学部	**埼玉県富士見市立西中学校**	**臨時任用**	**社会・特支**
	令1	経済学部	**東京都墨田区立文花中学校**	専任	**社会**
	令1	経済学部	**八千代市立大和田中学校**	常勤講師	**社会**
	令1	法学部	**千葉県立沼南高等学校→我孫子市立湖北中学校正規採用(R3～)**	臨時任用	**公民**
	令1	法学部	**相模原市立弥栄中学校**	常勤講師	**社会**
	令1	法学部	**浜名市立浜名中学校**	臨時任用	**社会**

卒業生進路一覧

就職年度	卒業年度	学部	就職先	職名	教科
令和2年度	令2	経営学部	東海大学菅生高等学校	非常勤	公民、野球部寮監・コーチ
	令2	経営学部	白鵬女子高等学校	専任	公民
	令2	経営学部	山梨県立富士北陵高等学校	常勤講師	商業
	令2	経営学部	入間市立黒須小学校	専任	小学校
	令2	経済学部	市川市立第一中学校	臨時任用	社会
	令2	経済学部	川越市立初雁中学校	臨時任用	社会
	令2	経済学部	尾道中学校・高等学校	期限付き	公民
	令2	法学部	桐生第一高等学校	委託職員	公民、野球部指導、
	令2	法学部	市川市立第七中学校	臨時任用	社会
	令2	国際関係学部	いわき市立湯本第三中学校	臨時任用	英語
	令2	国際関係学部	千葉県立松戸高等学校	臨時任用	英語
	令2	国際関係学部	東京都昭島市立清泉中学校	専任	英語
令和3年度	令3	経営学部	山村国際高等学校	専任	公民
	令3	経済学部	松戸市立八ヶ崎第二小学校	臨時任用	
	令3	経済学部	開新高等学校	常勤講師	公民
	令3	法学部	前橋市立前橋特別支援学校	臨時任用	
	令3	法学部	東村山市立新宿小学校	臨時任用	
	令3	法学部	松戸市立根木内小学校	臨時任用	
	令3	法学部	興國高等学校	非常勤	公民
	令3	国際関係学部	潤徳女子学園高等学校	非常勤	英語
	令3	国際関係学部	大阪学芸高等学校	常勤講師	英語
	平29	経済学部	千葉経済高等学校	非常勤	地歴公民
	平30	経済学部	川崎私立金程中学校	非常勤	社会
	令2	経営学部	松戸市立稔台小学校	臨時任用	小学校
	令2	国際関係学部	松戸市立松戸第二中学校	臨時任用	英語

2021年度　課程科目担当者一覧

役　職	氏　名	主な担当科目	備　考
教授（主任）	板垣　文彦	教育心理学、職業指導、他	
准教授（主任補佐）	池亀　直子	教職入門、教育原理、他	
教授	安形　輝	図書館概論、図書館情報技術論、他	
教授	秋月　弘子	法学概論、他	
教授	江川美紀夫	経済学概論	
教授	奥井　智之	社会学概説	
教授	ﾀｰﾊﾞｰﾌｨｰﾙﾄﾞ　ﾋﾟｰﾀｰ	英米文学Ⅰ（教職）、他	
教授	千波　玲子	英語科教育法、他	
教授	長田　秀一	情報資源組織論、情報資源組織演習Ⅰ、他	
教授	永綱　憲悟	政治学概論、他	
特任教授	大久保俊輝	特別活動論、生徒・進路指導論、他	
准教授	青山　治世	外国史概説、他	
准教授	今津　敏晃	日本史概説、他	
准教授	藤岡　大助	政治学原論	
准教授	藤村　希	英語文学Ⅱ	
准教授	松林　幸一郎	体育科目	
講師	東浦　拓郎	体育科目（体育主任）	
講師	八谷　舞	外国史概説、他	
客員准教授	橋本　一郎	特別支援教育概論	
講師	奥山　亜喜子	暮らしのなかの憲法、法学概論（教職）	
講師	狩野　真規	地理学概説	
講師	小林　惇道	宗教学概説	
講師	櫻井　　歓	道徳教育の理論と実践	
講師	佐藤　玲子	英語科教育法Ⅰ・Ⅱ	
講師	菅谷　幸浩	政治学概論(教職)	
講師	館　　潤二	総合的な学習の時間の指導法、教育実習Ⅰ・Ⅱ	
講師	丹　一信	図書館情報資源概論、図書館情報資源特論	
講師	利根川樹美子	図書館サービス論、図書館制度・経営論	
講師	中島　玲子	情報サービス演習他	
講師	中根　伸二	教育相談	
講師	中山　美由紀	児童サービス論、読書と豊かな人間性	
講師	並木　通男	商業科教育法、商業概説	
講師	庭井　史絵	学校経営と学校図書館、他	
講師	橋爪　大輝	哲学概説	
講師	橋本　洋光	教育実習指導、教育方法学	
講師	橋本　康弘	社会科教育法Ⅰ・Ⅱ他	
講師	長谷川啓介	社会学概説	
講師	平澤　孝一	教育相談	
講師	松橋　義樹	生涯学習概論	
講師	松村　純子	社会教育特講	
講師	元木　靖則	教育課程論	
講師	森　晴代	音声学	
講師	山田　徹	地誌学概説	
講師	山本　剛史	倫理学概説	
講師	山本　裕一	社会教育演習、社会教育計画	

課程運営連絡協議会記録

第１回　課程運営連絡協議会

日時：令和３年５月１０日（月）１７：１５～１７：４５

場所：オンライン会議（ZOOM）

【審議事項】

１．令和３年度 教育実習巡回視察について

【報告事項】

１．令和３年度 課程履修者の状況について

２．令和３年度 「アジアの風塾」の中止について

３．令和２年度 卒業生の進路状況について

４．令和２年度 『亜細亜大学課程教育研究紀要』の発行について

第２回　課程運営連絡協議会

日時：令和３年９月２７日（月）１５：００～１５：３５

場所：オンライン会議（ZOOM）

【審議事項】

１．令和４年度非常勤講師の採用及び資格審査について

２．令和４年度カリキュラム及び担当者について

【報告事項】

１．教職課程「教育実習」について

２．教職課程「介護等体験」について

３．社会教育主事課程「社会教育実践演習」の実習について

４．秋学期の課程履修者の状況について

第３回　課程運営連絡協議会

日　時：令和３年１２月２４日（金）１２：４０～１３：０５

場　所：オンライン会議（ZOOM）

【審議事項】

１．令和４年度カリキュラム及び担当者について

【報告事項】

１．教職課程の質保証、自己点検評価等について

２．社会教育主事課程「修了証書」について

３．第４回課程運営連絡協議会（判定会議）について

第４回　課程運営連絡協議会（判定会議）

日時：令和４年２月２２日（火）１６：００～１６：２０

場所：オンライン会議（Zoom）

【審議事項】

１．令和３年度課程の資格取得の判定について

２．各課程代表者の決定について

【報告事項】

１．課程担当者打ち合わせ会について

『亜細亜大学課程教育研究紀要』刊行規程

（目的及び名称）

1　課程教育関係科目を担当する教員の研究成果と教育実践を発表し、また、課程学習に関係する諸活動を報告することにより、本学の課程教育の充実に寄与するため、『亜細亜大学課程教育研究紀要』（以下「本誌」という）を刊行する。

（編集委員会）

2　本誌を編集・刊行するために必要な事項を審議するため、編集委員会を置く。編集委員は、課程運営連絡協議会の議を経て、課程の専任教員から選出し、編集委員長は互選とする。編集委員の任期は2年とする。ただし、重任を妨げない。

（発行者、刊行回数及び時期）

3　本誌の発行者は「亜細亜大学教職課程・図書館学課程・社会教育主事課程」とする。刊行は年1回とし、原則として、9月とする。

（原稿の種類）

4　本誌に掲載する原稿は次の通りとする。

1. 研究論文
2. 教育実践報告
3. 研究ノート
4. 研究資料
5. 履修生体験記録
6. 課程活動報告
7. 課程基礎データ及び資料
8. その他

（原稿の採否）

5　研究論文及び教育実践報告については、編集委員会が選任する査読者の査読報告をもとに、編集委員会が採否を決定する。履修生体験記録は編集委員会が執筆者を選定する。

（投稿資格）

6　研究論文、教育実践報告、研究ノートの投稿ができる者は、課程教育関係科目を担当する教員（非常勤講師を含む）及び、その他、編集委員会が適当と認めた者とする。

（投稿規定）

7　投稿規定は別に定める。

（原稿料）

8　原稿料は支給しない。

（原稿に関する諸権利）

9　本誌に掲載した原稿の執筆者は、亜細亜大学に対して、当該原稿に関する出版権、複製権、公衆送信権行使を許諾したものとする。

付則　この規定は2013年2月25日より施行する。
　2　この規定は2018年5月7日より施行する。

『亜細亜大学課程教育研究紀要』投稿規程

（原稿の締め切り）

1　投稿原稿は原則として刊行年の5月15日までに編集委員会に提出するものとする。その他の原稿は編集委員会が執筆者に連絡した期日までに提出する。

（原稿の字数・語数）

2　研究論文は邦文で2万字程度（英文の場合は4千語程度）、教育実践報告及び研究ノートは邦文で1万字程度（英文の場合は2千語程度）とする。その他の原稿は編集委員会が執筆者に連絡した字数（語数）とする。図表・写真は白黒とし、占有するスペースを字数・語数に換算して調整するものとする。

（超過分の経費請求）

3　上記の標準字数（語数）を大幅に超えた場合、超過分の経費を著者に請求することがある。

（英文タイトルなど）

4　邦文投稿原稿には英文のタイトルと著者氏名を付けて提出するものとする。また、英文要旨を付けることができる。

（原稿提出方法）

5　印刷原稿2部のほか、電子媒体（CD-ROM や USB 等）を提出するものとする。電子媒体は編集終了後返却する。

（校正）

6　著者校正は原則として初校のみとする。

（その他）

7　その他、編集上必要な事柄は編集委員会で審議して決める。

編集委員
長田　秀一（法学部教授・委員長）
安形　輝　（国際関係学部教授）
池亀　直子（国際関係学部准教授）

亜細亜大学課程教育研究紀要　第 10 号

2023 年 3 月 31 日　発行

編集者　亜細亜大学課程研究紀要編集委員会
発行者　亜細亜大学教職課程・図書館学課程
・社会教育主事課程
製作者　亜細亜大学課程研究紀要編集委員会

ISSN 2436-5440

Bulletin of the Teacher Training Course, Asia University

Vol.10, 2022

【Review】
Review of 〝Critical biography of TAKEO FUKUDA 〟
supervised by Makoto Iokibe ---------- Yukihiro SUGAYA ……1

【Activities Report】
Practice of Librarian (1) ---------- Tomoya IZUNO ……7
Practice of Librarian (2) ---------- Ayane KIKUMASA ……8
Teaching Practice (1) Social Studies ---------- Kaede SAEKI ……9
Teaching Practice (2) Social Studies ---------- Riku SHINKAI ……11
Teaching Practice (3) English ---------- Iori YOSHINARI ……13
Teaching Practice (4) English ---------- Musashi WATANABE ……17

【Data on Teacher Programs】 ……20

【Regulation for Publishing and Contribution Rules】 ……28